

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000064		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家瑞光 (2F)		
所在地	533-0005 大阪府大阪市東淀川区瑞光2-8-15		
自己評価作成日	平成29年4月18日	評価結果市町村受理日	平成29年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.keigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&dirvosyoCd=2793000064-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念『入居者一人ひとりがその人らしく 元気に たのしく 明るく 生活でき 笑いや笑顔のあふれるグループホームをめざします』を忘れず 入居者様にとって何が一番良い方法、手段なのか職員で話し合い支援している。職員の離職率は低く、入居者様と馴染みの関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、日々散歩や買い物に出掛けたり庭に出て花の水やりを楽しむ等、日常的に外出や外気に触れることができるような支援に努めると共に、初詣や花見等の季節に応じた外出の機会を設けたり、年2回遠足行事を実施して家族も招いて水族館や観光施設に出掛ける等、外出の機会を多く持てるように取り組んでいます。食事は季節感や利用者の好みの物を取り入れながら事業所で作り、職員も同じテーブルを囲み一緒に食事を摂っています。職員のチームワークは良好で離職も少なく何でも相談し合える関係性ができており、会議や日々の業務の中で活発に意見や提案を出し合い業務の改善やサービスの向上等に繋がっています。また、職員は利用者との関わりを多く持つよう心がけ、利用者が明るく、楽しく、その人らしく暮らせるよう理念の実践に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりがその人らしく生活できるように職員皆で思い願い日々接している。	開設時に作成した事業所独自の理念を玄関やフロア、事務所等に掲示することで職員への意識付けを行い、新任入職時には理念についての説明を行っています。日々の申し送り等で利用者の様子や支援等について話し合い理念の振り返り、確認をすると共に利用者一人ひとりに合わせた支援に努め、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り回覧板で地域の情報を得ている。月1回廃品回収の提供を行っている。近隣スーパーを利用したり喫茶店にも行っている。	町内会の回覧板等で地域の情報を得ています。散歩を兼ねて近隣のスーパーへ買い物に出掛けたり、月1回の廃品回収に物品を提供したり、地域の祭りの際は子ども神輿が立ち寄ってくれるなど交流を図っています。地域包括支援センター主催の防災訓練では近隣の中学生が車いすを使用し、事業所から避難所まで利用者を誘導する訓練を行ったり、併設の事業所と合同で行う夏祭りには小学生の参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方からの相談があるのでじっくりとお話を聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様や地域の方のご意見やご要望をお聞きしサービス向上に努めている。	会議は利用者や家族、近隣の商店の方、地域包括支援センター職員等の参加の下隔月に開催しています。事業所の活動や利用者の状況、事故報告等の後、意見交換を行っています。外出先の情報をもらい実際に訪問する等、意見をサービスの向上に反映するよう努めています。会議の案内や内容の報告は全家族に行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告を速やかに行っている。	運営推進会議の議事録を行政の担当へ送付し、事故報告書等の提出で行政の窓口に訪問しています。行政から案内の届いた研修には出来る限り参加し、運営上の相談をしてアドバイスをもらう等、行政との協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関出入り口は施錠しているが出来る限り外にできるようにしている。身体拘束は本社研修を全員受けている。	年1回法人内の身体拘束に関する研修を受講した職員が資料を基に全職員に伝達し、言葉による制が見られた場合は管理者やリーダーが注意をしています。家族の了解の下センサーマットを使用していますが、必要性については検討しています。また玄関やフロア入口は施錠していますが、外出希望の利用者には職員が付き添って外出し気分転換を図るようにしています。	

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の本社研修を全員受け入居者様の尊厳を守る介助を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症基礎研修・実践者研修等を受講を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に添って説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見箱を設置し、無記名でも意見できるよう配慮している。面会に来られた際や運営推進会議に出席いただいた時は、職員の方から積極的にコミュニケーションをとり、家族様が意見・要望を伝えやすいよう心掛けている。	年1回法人が実施するアンケートや面会時、電話、運営推進会議等で家族から意見や要望を聞いています。アンケートの結果は法人から家族へ報告しています。家族からエアコンの埃が気になると意見をもらい取り除いたり、要望を受けて利用者にタオルを畳んでもらったり野菜の皮むきに携わり力を発揮してもらおう等、得られた意見や要望はサービスの向上等に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社からは随時、業務改善提案を募っており、事業所内ではスタッフ会議にて意見の出しやすい場を設けている。	職員は会議や申し送り時、日々の支援の中で意見や提案を出しています。休憩が取りにくいとの意見が出され休憩時間を調整して取りやすいように工夫する等、意見を運営に反映しています。会議では不参加の職員から事前に書面にて意見を聞いたり、随時職員と面談の機会を設け意見や希望を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社より、従業員満足度調査を実施しており、従業員の現状の満足度の向上について図られ、自己申告シートの記入により個人の希望に配慮できるように考えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒採用・中途採用に関わらず、入社時研修の強化、また定期的なフォローアップ研修を受ける事でスキルアップにつなげている。		

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東淀川区グループホーム連絡会が3ヶ月毎に開かれ管理者が出席し、地域の情報交換を行うネットワークが広がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と親密にコミュニケーションをとり、意見や要望を話しやすい環境の提供を心掛けている。得られた情報はカンファレンスで共有し、その後も随時話し合いの元ご本人様に合ったケアの方向性を定めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた際に、お困りごとや不安に思っていることを聞き、情報提供・情報交換を親密に行い、一緒に家族様の課題と向き合い信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの生活における様子やお困りごと、入所を考えたきっかけを聞いて、ご本人様にとって1番良い選択を家族様が出来るよう、様々なサービス利用についても含め助言・提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が施設で暮らす上での役割・居場所を見つけられるように、その方が得意とすることは何かを見極め、個性を伸ばすような働きかけを心掛けたケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際や、月に1度お送りしているお便りで、施設の様子を伝え支援の方法について意見をうかがったり、協力をお願いしている。イベント行事やお誕生日会などの参加も呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や友人、教え子などの面会があった際には居室にて椅子やお茶を用意し、ゆっくりと過ごしていただけるよう対応している。親族の冠婚葬祭の際も支援を行っている。	職員と一緒に通い慣れた神社へ初詣に行ったり、馴染みの喫茶店やスーパー等へ出掛けています。家族と共に自宅に帰る際は身支度や薬等の準備を行っています。知人や友人の訪問時にはゆっくり過ごしてもらえるよう支援し、手紙や年賀状を出す際は切手やはがきの用意する等、馴染みの関係継続に努めています。	

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や会話の様子から、入居者同士の関係の把握に努め、座席の位置を工夫したり職員が間に入りコミュニケーションを取りやすくなるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際は、退所後も必要に応じて相談を受け入れる旨を伝え、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを職員に周知し、入居後は日常の関わりの中での本人の言葉をそのまま記録し、意向がわからない場合は家族の話や日常の様子から、本人本位に検討している。	入居時に自宅や病院等へ訪問し本人や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや意向等を聞きアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者との会話や様子等から意向や思いを汲み取り、困難な場合でも家族と相談すると共に会議で検討し思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や診療情報、習慣など個人ファイルにまとめ職員閲覧し周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を介護記録におとし情報共有し支援にいかしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に評価表を使ってモニタリングを実施しサービス担当者会議を開く。変化なければ6ヶ月毎に見直している。変化ある時は随時見直しプランを変更している。	利用者や家族の意向を基に作成した介護計画は、3か月毎にモニタリングを行い6か月毎の見直しを基本とし、状態に変化があれば随時見直しを行っています。見直しの際には再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開催し事前に聞いた家族や看護師、医師の意見も反映した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った一日の流れと、その日の様子からのきずきを介護記録に記載する。申し送りを活用し職員で共有している。		

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様自身が高齢となり受診が難しく、遠方の方もいるので柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供神輿を施設前で見たり、公園への散歩、近所へ花見に行ったり、喫茶店へ行ったりたのしんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は選択可能。現在全員協力医(内科)の往診受け、希望者は歯科・皮膚科の往診も受けることができる。	入居時に事業所の協力医について説明し、今までのかかりつけ医を継続するのを選択してもらいほとんどの利用者が24時間対応可能な協力医に変更しています。協力医の往診は月2回あり、以前のかかりつけ医を継続している利用者は家族の対応にて受診しています。利用者の状態や希望に応じて皮膚科や歯科の往診があり、精神科等の受診は家族が付き添い必要に応じて職員が対応することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受けている。看護師に相談し早期治療となるよう情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院退院の際協力医から情報提供していた。退院の日程は施設に入院先の相談員から連絡をいただき早期に施設受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応を説明し同意を得ている。ドクターから症状の説明を家族・訪問看護師・介護職員同席で話し合い方針を決め体制を整える。希望があれば看取り支援を行う。	入居時に家族へ看取り支援について対応可能なことを説明しています。利用者の状態が重度化した場合は医師から説明をしてもらい家族の意向を確認し、医師や看護師、家族、職員と話し合いを重ね方針を共有しています。医師の随時の往診や家族の宿泊等の協力を得ながら取り組むと共に、年1回法人の看取り支援についての研修を受けた職員が全職員に内容を伝達し知識を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社研修を受けている。AEDを設置しているので、救命救急講習を行う。		

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施。1回は夜間想定である。地域で行われる中学生との要援助者の避難訓練に参加し施設の存在を知ってもらっている。	年2回避難訓練を実施し、内1回は併設の事業所と合同で消防署員立ち合いの下、昼間想定にて利用者の参加を得て通報や避難誘導、水消火器を使用しての訓練を行っています。事業所独自の訓練は夜間想定で行っています。地域包括支援センター主催の防災訓練では近隣の中学生が車いすにて利用者を事業所から避難させるという訓練を行っています。水やパックのご飯等を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が介助を受けるならどのような対応がいいかを常に考えて接してほしいと指導している。不適切な発言・対応は注意するよう心掛けている。	法人主催のプライバシーについての研修を受講した職員が事業所で全職員に内容を伝達しています。丁寧語での声掛けを基本とし、第三者が聞いても違和感のないような言葉遣いに留意し、不適切な言葉掛けがあれば職員同士でも注意をしています。排泄時や入浴時の声掛けは小声で行い、希望があれば同性介助を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に添えないこともあるが、出来る限り意見を尊重し、話を聞き、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで一日が過ごせるよう尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・髭剃りを自分でしてもらい、出来ない所は手伝っている。おしゃれを楽しんでもらえるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきなどを手伝ってもらう。おやつもおはぎやホットケーキと一緒に作ったりする。	食事は献立と食材が業者から届き、利用者と一緒に調味料等の足りない食材を買いに行ったり、野菜の皮むきや盛り付け等できることに携わってもらい作り、職員も同じ食卓を囲み食事を摂っています。季節や利用者の好みに合わせた食事も提供し、弁当や出前を取ったりホットケーキ等のおやつ作りや家族と外食に出掛ける利用者もあり、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分を記録に記入し状態を把握している。		

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け行う。希望者は歯科衛生士による口腔ケアを受けることができる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り、一人ひとりトイレでの排泄を支援している。	座位を保てる方はトイレでの排泄を基本とし、必要に応じて排泄記録を取り、パターンを把握し個々の利用者に合わせた声掛けやトイレへの案内を行っています。入院時はおむつをしていた方も退院後、その方に合わせた排泄支援を行うことで紙パンツに移行する等、排泄状況が改善した方もいます。排泄用品や排泄支援の方法を職員間で話し合ったり、家族にも相談して検討する等排泄の自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供しヤクルト・野菜ジュースも提供し便秘に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜入りたいと言われたら入れる時は入浴してもらう。	週2回の入浴を目途に午前または午後の時間帯に入浴してもらい希望があれば回数を増やしたり夜間の入浴も可能です。入浴を嫌がられる場合は日時や職員を変更したり、声掛けの工夫をすることで無理なく入ってもらっています。入浴剤を使用したり好みのシャンプーやリンスを持ち込む等、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた寝具を使い、空調で調節もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が調剤、管理している。薬の副作用に十分注意し、変わりあればドクターに報告し指示うける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできることを支援している。季節を感じてもらうため行事計画をたて参加してもらう。		

グループホームたのしい家瑞光(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩に行くようにしている。	日々の散歩や庭に咲く花の水やり、夏祭りの時に子供神輿が事業所の前を通る際に利用者も外に出て楽しむ等、外気に触れる機会を多く作り、初詣や桜の花見等季節に応じた外出も行っていきます。年2回実施している遠足では家族も招いて水族館や公園等へ出掛けています。家族と自宅や外食に出かける利用者もおり出来るだけ外出の機会を持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として管理者・フロアリーダーが管理している。現金を持っている方が買い物したいと言われた時は同行し買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆がテレビを観れるよう配慮している。動きの妨げになるものは置かない。壁飾りで季節感をだすようにしている。	リビングには利用者と職員で作った貼り絵等を飾り、温かい雰囲気を作っています。テーブルや椅子は利用者の状況に応じて配置し、廊下にソファを置き1人になれるスペースを作っています。利用者も掃除機掛け等に携わってもらいながら掃除や換気を毎日行い、温湿度計や加湿器を使用し利用者の体感も考慮して室温の管理を行い快適に過ごしやすい共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチ、ソファを置き集団から離れることのできる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを持って来てもらっている。家族写真を置いたりカレンダーをさげたりしている方もいる。	入居時に家族へ馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、テレビや棚、人形、家族の写真、位牌等を持ち込まれ職員と家族で相談しながら配置を工夫しています。ラジカセを持参し音楽を楽しむ利用者もいます。掃除や換気は毎日行い清潔保持を心掛け快適にその人らしく過ごせるよう配慮しています。希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名前、トイレ・風呂場などにもわかりやすい表示あり。		